

障害者が社会に溶け込む要因

—中日両国における障害者をめぐる施策及び障害者観念の変遷と差異からの検討—

王怡清

HS29-0001A

目次

第1章 序論

- 1.1 背景
- 1.2 先行研究
- 1.3 研究目的

第2章 障害者への対応の歴史と発展

- 2.1 社会福祉歴史年表（障害者福祉を中心に）
- 2.2 障害者運動の流れ

第3章 中国における障害者福祉政策の発展段階

- 3.1 障害者福祉の草創期と停滞時期
- 3.2 障害者福祉の回復期
- 3.3 障害者福祉の発展期
- 3.4 障害者福祉の新展開期

第4章 中国における社会保障制度と障害者観念の状況-近年のアンケート調査より

- 4.1 中国の政治制度
- 4.2 近年における障害者観念・意識
- 4.3 障害者に対する社会保障制度

第5章 日本における障害者に対する社会保障制度と障害者観念

- 5.1 「障害者差別解消法」の成立に見る障害者福祉概念
- 5.2 障害者観念・意識
- 5.3 障害者に対する社会保障制度

第6章 溶け込めない理由

- 6.1 中国の制度と政治の特色
- 6.2 中日両国の比較

第7章 まとめ

- 7.1 結論
- 7.2 考察と今後の課題

0 はじめに

中国の SNS で流れていた盲導犬に関する動画を見てから、なぜ中国に 20 年以上住んでいるのに、日常生活で見る障害のある人の数は、過去 3 年間に日本で見たより少ないのかという疑問が生じた。統計によると、中国の人口は 14 億人いて、そのうちの約 1 億人は身体障害者で、全人口の 7%を占めている。一方、日本の身体障害者が人口の約 7.6%を占めている。上記の現象に加えて、日本の障害者は中国の障害者より良く社会に溶け込んでいるということが分かる。よって、本論文の研究目的は、中国と日本の障害者状況を照らし合わせて、障害者が社会に溶け込めるための要因を明らかにすることである。

1 第1章 序論

中日両国における障害者観に関する先行研究によって、長年にわたり、中国における障害者観が日本よりネガティブであることが分かる。障害者運動に関する先行研究によって、障害者運動が始まる前に、必ず新しい社会制度の創設を伴っていることが示されている。先行研究の整理を踏まえ、「障害のある人が社会に溶け込めない要因は何か」をリサーチクエスションとして提示し、「国民意識の不足」と「障害者福祉制度の不備」を2つの仮説として立てる。本論文は、中国と日本の障害者現状をもとに、主に中国における障害者施策の発展についての分析を通して、中日両国における障害者関連の制度と国民意識を照らし合わせて、障害者が社会に溶け込むための要因を中心に検討することで、中国の障害者に関わる対策の今後の課題を明らかにすることを目的とする。

2 第2章 障害者への対応の歴史と発展

リサーチクエスションをより良く論証するために、障害者への対応の歴史的展開を遡った。

障害者雇用に対する制度を改善すべきである。

2.1 社会福祉歴史年表（障害者福祉を中心に）

新中国成立以来、中国、及び日本における障害者対策と世界の動きを中心に年表を作成した。

2.2 障害者運動の流れ

上記の年表を併せて、障害者運動の歴史的な流れとその展開を検討してきた。

3 第3章 中国における障害者福祉政策の発展段階

中国の障害者福祉政策の発展を4つの段階に分けて、それぞれの発展の特徴を明らかにした。

3.1 障害者福祉の草創期と停滞時期

1949年-1977年：新政府成立、文化大革命。

3.2 障害者福祉の回復期

1978年-1987年：11期3中全会開催、障害者福利基金会成立。

3.3 障害者福祉の発展期

1988年-2007年：中国障害者連合会設立、「八五」計画。

3.4 障害者福祉の新展開期

2008年-現在：「意見」公布、「十二五」計画、「十三五」計画。

4 第4章 中国における社会保障制度と障害者観念の状況-近年のアンケート調査より

中国の障害者福祉政策の発展の特徴が現れたのは、政治制度と密接に関わっている。そして、近年のアンケート調査によって中国の障害者観念・意識を分析し、雇用制度によって中国の障害者の雇用状況を考察した。

4.1 中国の政治制度

改革開放以来、人民民主独裁体制は中日の国体となり、中国特色的ある社会主義に導いた。

4.2 近年における障害者観念・意識

インターネット調査によって、中国の人は障害者に対する認識が不足しているが、根深い差別があまりないことが示された。

4.3 障害者に対する社会保障制度

5 第5章 日本における障害者に対する社会保障制度と障害者観念

日本の障害者福祉概念の展開を検証する上で、近年の世論調査によって日本の障害者観念・意識を分析し、雇用制度によって日本の障害者の雇用状況を考察した。

5.1 「障害者差別解消法」の成立に見る障害者福祉概念

「障害者差別解消法」の成立によって、障害者の人権意識が高まり、障害者問題に対して社会的関心が高まってきていた。

5.2 障害者観念・意識

世論調査によって、日本の人は障害者の存在に慣れていることが示された。

5.3 障害者に対する社会保障制度

障害者白書で、障害者雇用制度の状況がますますよくなる。

6 第6章 溶け込めない理由

障害者が社会に溶け込めない理由を考察する。

6.1 中国の制度と政治的特色

中国特色的ある体制は、障害者その他の人民階級からの遊離化をもたらし、政治的参加の欠如にもつながった。

6.2 中日両国の比較

中国と日本の障害者認識、政府の宣伝意識、障害者に関する制度・政策を照らし合わせた。

7 第7章 まとめ

中国では障害者福祉制度の不備は、障害者政治参加の欠如と障害者の個別のニーズを満たさないことをもたらし、社会に溶け込めない要因と言える結論付けられた。

参考文献

朝日雅也(2019)「障害者雇用政策の展望」『労働調査』労働調査協議会, 581, 18-23 ……